

二酸化塩素および次亜塩素酸ナトリウムのネコカリシウイルス、ヒトインフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、イヌジステンパーウイルス、ヒトヘルペスウイルス、ヒトアデノウイルス、イヌアデノウイルスおよびイヌパルボウイルスに対する抗ウイルス活性の評価

實方 剛<sup>1</sup>、福田 俊昭<sup>2</sup>、三浦 孝典<sup>2</sup>、森野 博文<sup>2</sup>、李 哲成<sup>2</sup>、前田 健<sup>3</sup>、荒木 和子<sup>4</sup>、大竹 徹<sup>5</sup>、川畑 拓也<sup>5</sup>、柴田 高<sup>2</sup> (<sup>1</sup>鳥取大学 農学部獣医学科獣医感染症学、<sup>2</sup>大幸薬品 (株)、<sup>3</sup>山口大学 農学部獣医学科家畜微生物学、<sup>4</sup>国立感染症学研究所疫学情報センター、<sup>5</sup>大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課)

*Biocontrol Science* 15(2), 45-49 (2010)

ネコカリシウイルス、ヒトインフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、イヌジステンパーウイルス、ヒトヘルペスウイルス、ヒトアデノウイルス、イヌアデノウイルスおよびイヌパルボウイルスに対する二酸化塩素ガス溶存液および次亜塩素酸ナトリウムの抗ウイルス活性について検討を行った。その結果、二酸化塩素ガス溶存液では1-100ppmの濃度で15秒間感作するにより99.9%あるいはそれ以上ウイルスを不活化した。二酸化塩素ガス溶存液の抗ウイルス活性は次亜塩素酸ナトリウムに比べて10倍程度高かった。